



品 4
327
3

上トロツタの事

上トロツタハクナシリ流の隣流中々彼流を海より西南の
地海より北に裁く事峻山の下よりイトイヤヘシタルベ
き事ニ本トクナシリ流小流海の船日和を修ふ事
人是をト一里後舟とモヨロトト本郷長村と付村
の石をクテニルとソウけて名の移場と流を古
破ら取つた既の産廿七ヶ貫目程を本郷長流
船毎手書して標索とす不紀列南村場川を分る
事船仲船取を長ら室唐六 丙子年二月七日至列

瀬之の港を北航して難風也遂同九月十七日此処
モヨロ申渡之一天明 丙午年近二千年以前南
其以後叶信り日本の人物渡海せざる者あり
いよと日本の人物を是る蝦夷人多し一予天明
丙午年九月廿日知海ありし始く日本の人物往
還する事なれ 薩州の薩州不吉福也其人多
皆郡集一し此の漢をわく予の通るを今
遅しと御長り女子んらとて皆汝漢不出
近其れを科を以 無長り其又此をよじや

梅松疑
海松手

し言は印を若印の如くして葉を為一風空の
尾北松手甚しうめくふくふ切也又者葉
の葉ふれり潤をそふらけいする葉の中
母葉の如くの中者其多ハ細葉竹の如く内ハ
空すくす印有其葉狭きハ二と云ふを記せん
此同余亦乃ふ之実母最良ぬ印之文がわの
少後之を副い漕はれ千余里其くアウキ
ホリと云ふ高山ありけ言ふクイといふ樹を日本
めて梅松といふ樹に似く其葉之本月ゆて

節性能くよの色赤く見ゆ不親なり一曰樹木草
おとすタイカルしとらふ見エフリコ之松系少ハトウ
ホしと唱ふ。又西蝦夷地分あるエフリコハ蝦夷
ねよせと又クイふせしむる我上品とふ。付アサキ
リ分ハ九ヶ所中央エモシリノシケとらふ如エトロフ
ワタラとらふ山岩ありあもまきの形不似たり付岩
少圓くあぶらとエトロフと名付く昔チキルニヤ
こイクルとらふ二人の神とし謂ハる死人蝦夷地不渡
あつら其人の太刀の鍔ヲ提一階のあつらふ如し

フは疑
フは平

とてエトロフとらふとナリエトロフは鼻つは流ワタラ
ハ山岩とらふ如し此エハ義經禰鹿のあ人スと
しめ流ゆれも未詳是分僅くちかたりシヤチア
とらふ所少何ありあ勢漫くともて山奥曠地
とて其地を流也とらふとてとてより付石ハ
能く羽の出る所あり蝦夷地物なれ出を最
一の場不之真羽薄氷和尾の如きも此類なり
良品の物多し又シヤチア分北方海岸分四五千里
より隔くとヨワキキヤとらふ所を付所不蝦夷

比

人食物をきく土のり色もくおくのりく餅の
ぬり食用不遠を人と思ふもさし先づ水の施し
水干して砂をきく者もふせは紙糊のぬり
歩い平流ふり毒あり土人好ぶ常より受ける
又此しヨツキヤから北方西に名々の隅にあり海路
九十里ありしヤルシヤムよりあり此はふこりテ
カパイノよりふし名あり此は名のあり魚貝
西國の人あり赤人を唱ふる者序留り居り
たす所あり彼人率都婆のめくたす柱を建至

たり此は不彼國の國を海よりなる不建
るるに伝布し御春の解體をさすこり
此率都婆不た切ぬる既者書載るる記
て殿之時をたて且ふも語せんをふ所之
此はふこりバ又シカともし暇美人有此バ又シカを
赤人の名を能く習い通詞をさす之は赤人
の名を分りてホテナニセとふ此しヤルシヤムは僅北
の方より北にニ子ベツともし所有此はふ不流あり
高山の絶頂より直下海中に落ちる之其如白布

を引たりとてぬ一且是は代往てある細雨の降
つぬ一また雷の音雷のぬ一其の言は山嶽小
言は海よりて物とて一此ウルクの舟帆の時
仲白をぬ九十里余隔たる海上を視ふ白く
海系のみく是もふ蝦夷地の一の土嶽とて
叶所迄は高島の西浦まで海上と静く是は東浦
小舟ゆれは是もふ海かく波浪もさく湖波の
流也も早く一と舟一舟ゆれは通船の船此
に二子べつは東の方九十里程ふモシリハツケとて不

碇

小笠山よりけは山の程通り東西へ向て撥れ
送り一見は海路をぬくとウルクにこの所
は古鏡の底ありそき寛文十二年壬子勢州船
志摩守國之用帆とて船内ふ思ひの翌年七月
初より是もさくとり別叶はて天明丙午年迄
一百一十五年を歴たり此説三國通覧にも載
あり三十日の旅行を経て西浦の地刻るさる
名を以て舟の底たるを考ゆ一はさくは海約海
鹿とてまゝ一此トウルクは南は海山岸の岩切

きつらぬー此処を通り送世はレブンリと云ふ
る山あり此山を不焚く日本の浅間山至州と云ふ
の如く一處を山之頂上分流と云ふも川あり猿更
の事あり色あり黄之又温泉もあつて土人未だ
病不浴と云ふ事云ふはたぬ温泉の功能も亦
此是れ南浦のさうなる名をたもたらぬれを地名
も略す土人の住居も西浦と云ふ人も東西あり
とも因廻の地名ハ地圖をみるに諸島あり

ウルワフツの事

ウルワフツ一名獺虎はとも唱ふと海獣と云
獺虎と云ふ獣此島の周廻の海中に有る由不獺
虎はとも云ふ又ウルワフツはウルワフツとは
魚也ては島の周廻の海中に出現す此魚の形は
船の如く肉の色も赤く味はまろく食之相付
島の西浦ありモシリヤと云ふ所を予エト口ツツ
白浪海と云ふ此所不毛の島に不毛海と云ふ名
あり其不毛島の若ぬの如く一島と云ふ

とくや一又海後多くあり、嶺南を好く
食ふると同く、不文ブケウタラとソ、所者モ
リヤ、北方より僅り隔るる、及之、叶、不、黄金の山也
あり、其山の神を祭祀、是、不、障、同、金山の首
阿、其、善、兒、室、山、なる、た、此、海、層、我、北、り
る、と、也、ハ、セ、ウ、と、ソ、所、あり、海岸の岩の、以、温、泉、の
湧、出、く、漸、と、ぬ、て、直、中、海、中、少、あり、予、数、りの、旅、り
の、不、浴、せ、ぬ、ハ、叶、温、湯、不、浴、せ、り、叶、セ、ウ、分、後、迄
を、北、不、行、死、西、の、海、中、不、離、進、て、べ、ウ、ウ、と、ソ、山、岩、の、

あり、叶、空、房、山、ハ、多、く、冷、岨、之、形、千、玉、の、山、頂、也、ま、ま、る
群、集、せ、り、正、ト、ヒ、リ、カ、フ、レ、ウ、シ、ヤ、ム、千、り、と、ソ、多、く、杯、産
相、の、衆、母、也、一、此、岩、山、の、形、ら、其、と、冷、岨、め、く、風景
眺、を、目、を、強、る、ま、し、之、相、又、べ、ウ、ウ、の、也、不、ア、タ、ウ、ト、イ
と、ソ、所、在、叶、所、不、赤、人、の、家、宅、也、古、戸、在、其、邊、作
完、居、も、謂、う、る、死、神、之、叶、処、の、少、川、不、チ、ユ、ル、ゴ
と、ソ、山、又、急、向、り、国、を、隔、つ、と、ハ、産、相、も、ま、ま、る
秋、の、果、も、不、ま、る、秋、の、相、也、一、又、此、ア、タ、ウ、ト、イ、の、北、不
行、き、チ、タ、ン、モ、イ、と、ソ、所、あり、此、不、叶、後、又、西、に

の隅より色の沖より西よりてカニに、船は在ら
 二千里ホイ路。ヤンケ千里ホイ路の、路見也又
 ナタシモイ分路をまよりて東の沖よりシムコと
 少路何り是分路沖よりヤンケモシリ路キタホ路
 シフシモシリ路カバルモシリ路の四島在此外晴天
 ちぬれしモシリ路も見也此路は下口路ハ
 大島と扱けテシムコハ僅南より凡千ハヤノムイ
 シム所在ケ所ハ極島の極端あり赤人此地を
 改名しくニヤバリコと号せし又千バヤノムイが

南より凡ワニナウとシム所ありケ所赤人の
 海あり船とは船のあり、所をいふ天明西年
 年以赤十と年赤人出海せし時大津波有る
 事多ク大津波少彼大船も揚り也山の谷間ハ
 多り、赤人も、川見也、山と名れ、其山は
 ちかく其後大船ハ山より降る、り、り、り
 を一免としたり、ケ所赤人改名してバギナ
 移り赤人居住居の家は其山戸あり又ワニナ
 ウ分南より地陸見也、隔て、り、り、り

けきハ極虎多ク一赤人政多クコロシシと名付ケリ
宗系多ク多ク此の地は赤人多ク海一
港を相領スル事一蝦夷人の愚直目如ク
是れもたゞ事ハ蝦夷の愚直目如ク
肥利長為小地一中華小交易ありハ久
つ古例一々一近年ハ赤人極虎を始メ
之ハ極梅一々一若シヤの産物と為テ中華北京
小出ニ交易スル大利國を以テシテ被テ
日本ノ為ル由ハ自利ハ小利の基ナク
事ハ況何と云ハリ略ス

カムサスガの事

クナシリ島のカムサスガ國の事ハ大抵此の
島ハ島嶼地也日ハ國ハ小島多ク屬
島ハ相前所至島の東南の島村ハ海上僅
ニ里ハ一最極クナシリ島北極出地四十三
國廻九百五十余里此島ハ海上僅クハ六
百餘里此島ハ北極出地四十面交周廻九
百餘里此島ハ北極出地四十面交周廻九

此ヲ子コ名信の之島ハ平トロフ此小島に近大
信之より去れハ見申此島ハ四国と九利危
の島とあり何處に信之ハ少島に國と之を
大島に名ス此島は國と此島は今ハ日本
此島ハ教信小島にたりナリナリ此島北極地四
十二度之カムサガ南北と相距る事緯二十三
度^度多れ北東西相距る事緯二十度也(一)ナ
リ此島西島ありてカムサガ國なる見
押分良の方位小麻羅とある此島は八日

斜

七國ハ教信セリ其島は八日也此島二十三
度南於甲度相離り八度ハ是南七緯度之
東西經度ハ九十二度小島と緯八度を横と
經十二度を縦と一此島横の内ハ斜^{ナリ}日本
國と名有り地幅八日也國中は一ト云を之と斷
ハ申ハ此島ハ此島國之ナリ此島カムサガ
國ハ緯十二度を横と一二十余度を縦と一此島横
の内ハ斜^{ナリ}日本國と名有り地幅八日也
一二度小島と名有り此島日本の地幅と一斷左ハ

赤申分母宮ハ麻子テ大抵小廣川長一是を新
て々花の如し

赤人国の年号一千七百二十二年日本の正徳に年小
ありて赤人初てカムサカ国小部とて此国を侵
つた其後毎永年同分カムサカ国小部を
築り郡縣此交代何とて開業成る事奉登
之依く大鴻於治名を改極育者尊し租
税を採りて帝都ムヌクバ小送る之其治る玉人
も今を既赤人の風俗小化しり嘆くる所小

何と云や

之小重知道凡有国の開業成る所は
其所在の國北極度母大差を悔悟し開業を起
すべく此教をあたふ考あふ小部極をの税と
思ふ所候小母本を以て南陽の地北陸の地ハ
進て難し北陸の地南陽の地小進易也天理
之カムサカ国小南方小向て百路南方小其六
一四少暖之西を初小以り少多小依て進て易き
若し日本國小般美法島小皆小陸の地之依く

一本
孫七首

進く雅児ハ赤人の通ふれ之此理を我日本の首
示ふさん夏目氏長徳奉行の時海軍の紅毛船
のカビタンア、レイトウ正レムヘイトとソル者の日軍
死日本の属海蝦夷地は、小名河とて海海を
しふ赤人其業を、此五所を見く嘆ひて語り
と、り此カビタン明和八年歳末國唐泊浦の
水に孫太爺と、いふ老南洋のボル子ヲ國に漂ふの
後九、年舟と、此カビタン被孫太爺を運海、赤
赤人の物語を見りせ、と、時統を、と、後、

蝦夷地山鳥に、海、と、視、不、現、不、翁、翁、を、今、と、
め、く、嘆、く、危、死、の、甚、き、不、何、と、也、

千ヨウキ千国一書

カムサスカ国の東、西、の、方、位、は、南、り、地、積、は、千、ヨ、ウ
キ、千、と、い、ふ、大、異、國、あり、北、極、出、地、凡、十、余、度、不、及
國、と、此、國、の、土、人、ハ、蝦、夷、種、類、と、い、ふ、赤、人、種、類、不
も、と、く、別、ふ、一、種、の、人、物、と、い、ふ、も、國、中、不、王、と、い、ふ、人
も、と、く、日、本、の、蝦、夷、土、人、の、め、く、と、い、ふ、不、通、は、赤、人
種、類、と、い、ふ、從、ひ、不、名、我、政、易、一、ア、十、ア、テ、リ、ス、コ、イ、

こふ此國亦大河ありアナアテリと云ふ此河の名不依て
國名をせりと云り國をチシニと云ふ山獸有此獸の
皮實り良皮之此國をヤオの地ハハシは積雪もあは
極寒の地めて四時氷海と云り依て通船はる事
不能北極出地六十度少なるこふ此山人山捕を業
と云ふと云ふ此山を多く銅を山捕の時不連
り是將の事傳をせ又寒夜山嶽を栖り宿る
時不火と依不卧て寒冷を凌ぐと云り土人を獸を
亦も等是人間之ヲシ二のときと鹿有る其皮を亦

赤人々九十日同居せし時不能身より其獸の角を
赤人の細工を云ふ卑子ヒツホサシ一本赤人が獲てて今
所傳せり白犀角も此物也
赤人ハ此國風を依て其業を巧むを以て譽
るとは殊に同業を云ふ一命を以て國國の尊創の功
を立つと云ふ既云々と同宿せしメチ下
只イイジユイシユは天の己年ウルワは依不赤人
の大船一般海の乗組七十人の内イシユヨ主候
三人残り今不上トロフの内ホシモイの己名ルリ

しどう家不同長は後者二人は逃く西へ今もイシヨ
き人せり帰るせりけ事おあふたなるふ分家長
有自し名ルリしと命令し赤人丸本國、追戻はる死の
台帳とせしと名ルリしと命令を赤人お付りぬ
赤人イシヨ冬日某ハ本國、帰り難死子ゆあり
若し帰るぬハ死刑不遇不罪何ぞや海國ハ
如難し難きを何處追戻はる不捨てハウルツツ
少くお人の西の事と要は國王、奏せんとす赤人
の死をいふと赤人の官船一艘本玉の産物程、

積りし物ウルツツはる漂ふと其の船中小人はく
赤人の死骸をいへりて是物ハ別乗より船中
之人を幸と降船の土人ハ大警集りて船中の
荷物とよめ棄るはく放火し彼船を獲捕
たり此事を國王と奏せんとす如之土人おも國
りて追戻はるりふ叶しり予推量しとす赤人
の趣意をむせぬ是地も實に宛め難し土人
はく赤人をその伝依後せしを如く日本交易
の事も赤人お絶く是地を置し放くハ彼國を

産物を運ぶに依りて此島を以て一島と爲す
みその名は一島と爲す此島の産物の大船を積
たる船何れの時後船も此島之東蝦夷地の島に
ありて一島大古から新洲に在りて其の属は日本
人産物の蝦夷人住居を以て別日本此境而不
疑ひなり然るに此島を以て一島と爲す
此島を以て一島と爲す此島を以て一島と爲す
を極音教通事一島を以て一島と爲す
の租税と云ふ此島を以て一島と爲す

の役を勤く此島を以て一島と爲す
正月月中旬雪中を以て一島と爲す
も此島を以て一島と爲す
ありて一島と爲す
日此島を以て一島と爲す
六の時此島を以て一島と爲す
此島を以て一島と爲す
此島を以て一島と爲す
此島を以て一島と爲す
此島を以て一島と爲す

赤人た付く事お尋くよりイコトイは赤人亦兼く
知り今も赤人ト云ふ時道の取扱有るに渡道
所前山を伐くを領我共々せ赤人たに
不聖を求くよ招我領我共々せ赤人たに
くく不収ひより聖旨おめく命の旨を渡を
此事あるに依りしるに此の旨を
勿事よりより赤人亦亦多しと曰今令ふ
て此事之能く令治す一其詳等何なる
國境内且海に赤人亦亦多しと云ふ事

甚中極業の爲ふウルワグ終く海せし赤人の
同輩の老もく國境内及身命も拘るに
日給の山に出入りく其の旨を
所概せりし赤人亦亦多しと云ふ事
て不略せりし赤人亦亦多しと云ふ事
併いししり終り此の旨を
有自赤人亦亦多しと云ふ事
より異国人亦亦多しと云ふ事
禁止制之依りし赤人亦亦多しと云ふ事

御よりけし人のも國と姓名たのめー

イルウコイ國の者シマチトロヘイイジュヨフ 十年
二十二年

チホツカの大港の者イウシウモコイイジュサスノイ 十年
十八年

イシユコは重役の者サスノイは次役の者と見たり

前書の命令を圖く友人をよき立寄るる見たり

後て早下ロフ給上立處の時より予と國前より奉

ら月の睦月給たれ離別をよき愁傷せし月

初旬赤人おきて舟予も暇乞の日中禮を信屋

りぬは彼赤人友人ヲロシヤ國の離別の礼あり予は

中山長く赤人五人をたふ置れ予り舟の掌小 サナコロ

乗り當り候合斤手まてハ予り暇の下に赤人を先入

友人と同種小たふりあり感心深注して表

いふらあり曰後ひ遠くも時向ふ後遇しんを文

と我まらん又友人の曰後不遠國を異國を

再ひ遇しん指を見くされハ生涯の別しんを思ふ

ふひたち互ふ一舟給しを又其ま母後ひてし

後く小高を多あり難呼也後してお止る不獨

法ありく返りてその事ありけり世に

萬國新話
曰南北
亞墨利加

むせびりり船を来いじ言はエトロフは住居せり
又サススコイは本國に帰りしうら今ハエトロフは住居
さう是分懿母惟んフミシさすヲホツカの港分るしや國
の官船が帆して日本東洋教里の大洋を隔て北
西墨利加とく凡北極分南極の每直下西通帯ひ
多る大國なり此國ハ陸海せしとふ事イシユヨ予
舟見示影りり先づ初ハ大船三艘出て出帆せし
其國海を隔事遠地なる陸海少序是ら
ヲホツカに帰りて再王命をく大船九艘國産

元滿中積弊一般小人數凡七十人宛宛舟細て
お帆せしとソヤ事ヲホツカの地子見示さるり
とる事ゆり大船後きて予々思慮ハ及難
事なれハ只底定味要る事とて思ふ事之
是亦舟程は後有未極なる事を知る何世不
しんも大切な事と名も之新地ありしは時を以
たれハ是地ハ穢論を争う度くハ今エトロフ
諸島陸海に彼イじ言今に歸せしとあけし對
西一々事ハ後の地子たるを以て又南北西

ホウカ疑
チホツカ
手

里利加、海海せし彼九艘の大船丸の客吾は定き
イニユヨへホツカの後署分通したるにたれは他く
れしやきり女の瑕崖ふむるにり、其意を
けして生を扱らぬは日中固く生を修する躬に
れ之極又チホツカの大港ハ唐太始の正しき南り
ベンジユシニウリヤ成化デセイ千ヤウベルスタ何と
ふつ後イニユヨ之り釋し日本の内海を九万
町何る處しとふゆ之チチホツカは大港を賣を
も何りある秘事昌の地ことなり

前まきのめく北方は白井業ゆて良國とぬるふ
蝦夷地は終ハ皆彼國の南ふあると暖國ぬを日本
國の民の思入ハ寒國を業ふぬとふハ霜
法の所はぬ一北極出地母分考助止也ハ道
記統權の者事と

鴈鴨の事

日本國民の務ふア鴨ハ常盤少作らるるに
を疑ひりふ予天明 丙午の夏ウルツプは不
陸海せし此處き不例年五月頃ありア鴨

帰る位までお人のお船の之予も切靱一たり此
ウルツツ流る母魚山あり凡九里ヨリ海上を隔
くしモシリ流る大島有此流の内ふ浪きて
一鴨有らふ是も又母魚ふありて流るあり
はる一鴨をとりてとりたるカムサスカ及チホツカ迄
ハ鴨を群集一其中母魚を造り雛を捕ち
哺卵養育之月を造りてとり赤人の國はふて是中
ハ一鴨を捕はる事一杜ふ制衣之と雛も漸く成り
秋の末に今又南方の流圍、赴人をもつて頃より
て捕業を免許ありて鷹鴨を捕る事夥し
なり彼國々中の食用の糧と爲ると之此流
イジユヨサスノステイとも其物流りせり

勝左衛門漂流の事

奥州南部佐竹村の者あり竹内徳兵衛といふ者
け者由船中水主を組む令二十七人大をて魚のメ
槽を積令高内の為東都ふ赴く其船前
般して一千石石積之延享元子年正月十四日南に
佐竹の港をお帆せし、雖風ふ遇いしの方、漂

流して赤人國に漂ひせり此國の王は是る異國人
漂着せしめ哀憐を垂し扶助し是れを舟
せしむるを見く後には舟長をたすむるなり是れ大
國の制度ありて用國を爲すの大計策なる也
舟船頭徳兵衛親政舟長舟頭奥戸村
伊勢舟長親政舟長八口所之同村の者あり
長松口所之を村の者あり伊勢口所之を舟長
舟五人舟長舟長ありて赤人國の土人とぬりて人
九口所之を舟長ありて國村の利八者カムサカ國の
土人日本通船トヨトコト舟長の姓舟長とぬりて
赤人國王城近所ありイルクウコイと舟長不仕居
是國王の長とぬり銀沙沙高岡の家祿を給りイル
クウコイの首司とぬり舟子を徴しり此子の姓舟長
庶人舟長とぬり是國王の長ありてイタラシシ
セイチヤと名を獨り天明三年舟長あり十七年
舟長國王の令舟長大船を給ぬ不制化あり水主
セイチヤと名を獨りコロチタラハンエリスコイと名
港を開帆し南方舟長路を求現出し舟長

初めは赤い船と見ゆ予はイビヨカスノスイの五人
物船せし初めは是は赤い船なる事ありと見ゆ彼大船
蝦夷日本の地方に赴きしは船の西に西蝦夷カラ
アトは赤い船と見ゆ此船の土人たる事馬村のよ
起りしは此國津大赤船り今我れ及多しと見ゆ
船中の赤人も多く射殺すれ其船は流し
在蝦夷地ウルワパの内アタワトイと云ふ所
漂せり時不上下の所を名ハワパイノミ
者捕業の爲に此船は赤い船と見ゆ此漂せ

を是れ赤い船と見ゆハ船中五人あり只赤人の死
骸あり高物を投じし物あり其船は金貨船
羅紗船と辨其外布帛の類は赤い船と見ゆ
赤い船は針船ハワパイノミと云ふ事此船
船の所の宝物夥多し積りてありしを天が我
れに与りし所多しと云ふ事此船の宝物多く拾ひ
しと云ふ事此船を放火ししは獲物なりと云
ふ事此船は捕業の爲に海に赤人の大船遠く
か出さしと見ゆと云ふ事此ウルワパの所

船は之を見くりぬハツパイノ思き一赤人の大船
後排船中の荷物を奪ひたつ事敢てしあてハ
船中の小舟も救せし一かゝ疑を信人七日の
言知をも見定も處^{アハナ}て船夫舟九艘も彼室物
を積し高船のよ人百余人あてウルツフの白船
乗る事住所の上トロフの舟も逃れんと海岸を離
し湖汐の急流をも厭しと大難を極めし一
打急船の流く空に中あて九艘も西渡りて
百余人の船夫も人び死し一及びは紅赤人の船ハ

ウルツフの舟も上陸せし一其も不図章
残り居りし船夫も人び死し一及びは紅赤人の船ハ
一々赤人の舟も上陸せし一其も不図章
とてあそぶ舟は捕獲する為海海一此アタツト
しかせし一海海の内異國の大船一艘漂着し
船中船中人あて死骸口一ツ有船主もなきを
あ物奪を逃れし舟もあて死骸口一ツ有船主もなきを
アツツ海海大船もあて死骸口一ツ有船主もなきを
古國入也船中もあて死骸口一ツ有船主もなきを

利少るに其の多きにたはくして不美の振舞ふに結ぶ
 絶くしむに牙こそて進帳を授けしよりこころ其後事
 天明四年の夏汝海の命赤人其宗前章の始末を辨し
 りぬる何れもいふ所後事一遠近を不政事と命を別
 のしとく不義が世にも世にも事々を授けしより世
 とも其後のつみとさる口惜きも因口とさめと赤人の
 日王の何る國は政事何とて天下萬邦皆不義の
 振舞ふ不法の働にたはたせし政事の前はたはたせし
 治の統緒之依り日中の属治すく日本の上は
 の治とはふかきし一依り國業を興ししより其治
 のを治りしより

赤人船儀より事

天明四年辛卯四月赤人船儀より松本を西南の内海
 小舟あり近松前を西より南に江良西村より所所の
 沖破き道を二二里を離して船をりお人其船不
 思ひ日本船よりはさく帆柱を中より帆柱多く
 吹流し等をも見くお人も異國船とハ誤りせり
 此内海ハ西ハ山丹國羽舞國東ハ日本國蝦夷

國ホク依古介の漂流船に如けの物あり土人の害
もむの事之に相前して異舟番もかく流何れと
相承る所も若し一にひくけ所を生帆して西ホ
の方より又因縁の内信小巻村より所の仲夜
ま二二里離て破船しころ時小土人捕あふあ
彼ら船とく漕船を視れは彼ら船も異國人もく
手振せり系倒とく多し殺し異國人も
是等一に信舟通せしれは半時知くて追寄り
赤人の類も相承り土人のやくとかぬとて脱不

鳴りやせしとハあまきと同一籠りあつてる或半
の先かそを蝦夷船の内母り也與つたり又分果
を相帆して西ホの方の地行を多しとて因縁西
蝦夷地りウヤ村の邊上山をめぐりて相承り
け船を見せると西と相承り海せしと午後
り長き山を多しなりよりとて予亦亦早の早
ちのぬれの隙を殺すふま殺しとも見しを相承
殺の形を交へ輝いて面影をぬく者も亦多し
物、他のま何り亦亦もソウヤ村ハ相承りを

西の地ありカラフト等の海に赤人船を
 所至の地方見裸り其周囲の地を廻る
 見らるゝ是れ日本國の所用の地を廻る
 所と東蝦夷地の地を廻る所と國の風俗制を
 等と示し治を及器財布帛を送り格を教
 導して土人を治めしむる所と唐土の
 二海とも其の通ふせん兼ての事なり
 海上里程及交易の事

此の遠近海上の里程は概測の里人も未だ知
 や千にり此の先ハ未だ日本人は海を知らず
 見ぬハ勿論の事なり一宗日本に船師とい
 海上の里程を知る術を知らぬ唯を遠を知らず
 空眼の里程推量するの依りなきと未だ
 事のしるあり予者人同ひる其の術を
 捷經の法あり又陸海里程の圖を以て
 ありしありし所を測る海の時必めし
 里程を量る又方位をえり日月星辰高低を
 測量するハ計盤象限儀等ありて測量し

て我舟の所ををりて進退をせりて定不日本
人の不乃所と

松前家長上乗より後月あり是は獻上の兵く
権柄皮銃等相等を物種く取立の爲場所は更
高人船より海へして其物ありしはより産
物を取立り事し新井田大八より家長此上乘
後ありて子にり此舟海へし時赤人スナに
り此舟海へして日中國を去りや國を去る不立
島は此舟は自其舟事類之有日新井田大八

是を事し船ありし事を國之上作主人不其意
を慮之主人又其舟上へ窺ありて許容あり
これより事あり何止明年の由は母之死に
明年又此舟不立今せし由は自其舟事あり赤人
も今たし即事年毎永八主ノ其又子にり此舟
吾舟を後らばこれ舟上乗役の有司は海
せし事より運ぶ不操い日中地へ海へあり入
地方の里程事探索せし意及クナリ此
舟帆して松前所を此舟アウケし場所の内ナリ

て吾人をも是れ向く如く帰航せりといふ
日本が珍り物の手拾ふ條赤人の國王、おし
日本國王の長松赤家が珍りたる注釋、
英女一りれ、赤人の有司石洞法舟、
殊にけさの進款の只、日本が珍りけふ
洞法、依り刑、亦、
あり

天度の里教し事

我先哲の說を視る、天の度と地球の
何て視る、凡四十里余と見たり、又中古の
布、
あるは海して交易せし、此は海上王者の
此人の作、梅針書、し、
一事、
一度の里程九十三里と見たり、
世人を向く、
天下國家の大用、
也

事不遇少時を運送序に於ては庶民の飢餓の憂を救
ふ是船作の功之也於是竊不懐ふを於て我邦の風
俗を天文地象此道世に傳ふ事跡ゆふ因る
と云はる江戸北極出地三十九度半池松前を半二度
と其より北極出地之輿地圖の読み従く三十二度
と一度とて二百八里を得たり武鑑に載る所ハ
三百里あり是も勘勘せり又乃谷氏の読み因る
二百八十四里有奇武鑑に載る所と相似たり
奥平阿蘭陀ハ一五五棹を以て一里とて二十四里を

地球の南北緯度の一度ハ何れ阿蘭陀の一棹ハ日
本の曲尺母量也一丈四寸二分あり是を以て日本の
道法ありハ緯一度ハ八里十二町之又赤人ハ尺
を以て三寸五分即日本の二尺四寸あり此アルシニ
今て七寸五分を棹の定数とす棹ハ土地を量
るに用ふるハ衣類を量る器我朝ハ異為事あり
一棹をサセンといふサセンを五百令て日本の二十町ハ
是と云え凡スタと云ふを此ハアルスタ二百四寸を以て
て地球の緯一度ハ為日本尺ハ量也ハ二十

九里七所不南之北各氏一度四十三里七分五厘六度
亦不乘一々二百八十四里二分七厘五毫所之國地
一度九八里十二所六度亦不乘一々一百八十四里六
所亦人國一度九八里六所六度亦不乘一々一百
八十九里九一町

輿地圖一度三十二里六度亦不乘一二百單八里武
鑑少所載二百九十里

紅毛の書翻譯并曰古シヤ國ハ東西の相距經
度一百七十度何リと凡説考不見より又也亦迄

直下經圈ハ廣く是ハ南ヲ離也地ヲ離其經
圈漸く其極南北極直下の地乃至北極
迄之緯度の集る處の一点を視るのこ此處の
忠の一点ハ緯度起る一點の天頂ハ北極を
北極と名付南極を南極と名付其極直下
所立の土地至陸所々四時之極冷極冷也
年中氷雪の堅氷く此氷日本國
の極暑の時ありて亦融解して海あり
くよと極冷の時ありて是堅氷を増殖す

之經度ハ東西小距リテ環形のことく赤道を最
大圓とし五極を最中圓として一點としたる者
道ハ南北小距る後ハ經圓小小ぬて西極
小距る一極とぬて極又緯度ハ南北小距リテ環形の
ぬく其緯圓北極を極とて南極小列と又南極を
卷として緯度を生みぬて其經緯の天體を視
る小魚網の目のぬくこと

大河の事

赤人帝都の西方マユルランテヤ。ホルトカリヤ。イスパ
ニヤ。イタリヤ。フランスヤ。リスランテ。ヤアラビヤ。アム
ケリヤ。ボリシヤ。マラシヤ。キイユウ等の諸國は
チロシヤヲ屬セリ。歐羅巴列の内多て遠國をぬ
是を略す小帝都の東方ハある諸國の内多
大ぬハトボリスコイ。ウニエセスカ。エウウコイ。イル
クウコイ。コロチメラハシリスコイ等の諸國は皆
チロシヤの領内ニ小ぬハカスビスコイ。アスタラハニ
カガン。トロハンスコイ等の諸國ハ皆チロシヤの領内ニ
北高海ニ此諸國皆北高麗^海の北浦迄の國とめて西伯^{アベ}見

赤亜^{シヤ}印度^{イン}中華等北の方にある板二ワと云
河有此河ラアトカと云湖台溢してサシビケレ
ホルトと云北海と云此河の傍より沖に離れて
ワシリウスコイ。チ、ストロフと云此河の板又コロチ
タラシエリスコイ此大河をテウエナと
名付く是も北海と云又、レナと云此大河有此大
河チロシヤ國の中央を流して上ホレンスエイ。カニ
ルスト。エウコイ等の國を流して北海と云此
河口近く距離ハ河闊九七十里ウエルスエ
ル

と云り日本道長十九里餘なるは彼國の大船
河ハ瀬と云帆をを帆する事九三十余日の船路
有大河ハ是を推して云る此三千余里瀬
河幅九八里ウエルスエナと云日本道長二里所
之是分派の方より大船瀬する事少能依り河舟
通船して運送を運す又アシカラと云河あり
此河の原ハ湖と云バイカラと云是も溢して流
るるをアシカラと云之此流を降りて別ボイル
テウセコラカの二條の河原合以上二條の流一集

ぬ大河と此大河をエシエセイと名付くトロハン
スコイの地を轉流してセリウエルの北海に流る
又子ルキエンスコイといふ國に子ルキヤシリカといふ
二節の河を此カサンの地を流して北高海に流る
又カサンの地よりウチカといふ河あり此河カズコイの
地を流して北高海に流るトボリスコイの地に
イテシドホの二節の河有るも北高海に流る又
チロシヤ國の領地と中華の領地との傍に小アモル
といふ大河有る此河の流あり到るチロシヤ國內

小入ると赤トロハンスコウシヤとレシコウシヤとの流
も流るる之流一集めてゴロチタラハンイリスコイ
の北海に流るる之流北高海に流るる中より此河を
北極出地六十度以上の冷海より其年より
とも氷海ありとも通船する事ありとも北極
の高北海より西伯利亞印度中華の方
チロシヤ國の南方の地中より海に流るる其流
ハ湖に北極出度九十度余なるも其流中ハ氷も
出るとも其流ハ溫暖なりとも通船ありとも遠く

使利之於他國ニハ何名不國リテ地名をまゝ
多ク此稅皆て千て千セスカヤ。ヒヤウヲラヒヤ
とリスロシヤ國の書公報向あより予此書
イビヨ備せて注譯せし所之別々地を
徵信せしめし記し後の年路不備ふ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



